

津軽ダムにおけるクマタカ人工巣(補修巣)の繁殖成功事例について

国土交通省 東北地方整備局 津軽ダム工事工事事務所 調査設計課 法人会員 田川 和義
林 秀治
五十嵐 悟
〇類家 直人

1. はじめに

津軽ダム建設事業においては、自然環境に配慮したダムづくりを進めており、動植物の生息環境に配慮しながら工事を進めている。中でも猛禽類については、平成19年3月に策定された「希少猛禽類のための生息環境配慮指針(以降、配慮指針)」に則り、必要に応じてコンディショニング等の配慮方策を実施しながら工事を進めているところである。本報告ではこれを更に進めた配慮方策として、営巣地を遠方へ誘導し、猛禽類への影響の軽減を図るための保全措置に対する成功事例について報告するものである。

2. 目的

津軽ダムでは、平成10年度から鳥類・猛禽類調査を実施しており、多数の猛禽類の生息を確認している。

このうち津軽ダム建設に伴い影響が予測されるクマタカ7つがい、オオタカ1つがいについて、事業の影響が懸念されている。そこで、平成16年に有識者等からなる、津軽ダム猛禽類検討委員会を設立し、助言をいただきながら平成19年3月に「配慮指針」を策定した。これに則り工事・調査等を進めているところである。

津軽ダム建設事業による希少猛禽類への影響としては、貯水位上昇による営巣環境の改変や、配慮区域での津軽ダム関連工事による影響が考えられる。

また、事業としては、配慮区域で工事が計画されている場合、対象つがいの繁殖が確認された際に、ヒナが巣立つまでの期間、できるだけ工事を控えることとしているため、工事施工期間の制約が少なくない。

そのため猛禽類への影響を更に減少させるため、営巣地を遠方へ誘導させる手法として「人工巣(誘導巣)設置」及び「半壊巣の補修」を実施することとなった。

3. 配慮方策

クマタカつがいについて、津軽ダム完成後の貯水位上昇による営巣環境の改変が大きいことから、貯水位の上昇による影響緩和を目的として、平成19年12月に「人工巣(誘導巣)設置」及び「半壊巣の補修」を行った。

3. 1. 人工巣(誘導巣)の設置

①設置箇所の選定

設置箇所については、出来る限り現在の営巣環境に近い環境とするため、下記の点を整理し、人工巣(誘導巣)位置を選定した。

・営巣木の種類、営巣木の植生、標高、傾斜角、壮齢林比率、水域からの距離、樹高、胸高直径、巣高、架巣タイプ、巣サイズ、巣材等。

②人工巣(誘導巣)設置

人工巣(誘導巣)の設置は、クマタカへ配慮して人工巣(誘導巣)が営巣場所として利用し易いよう、上部の枝を剪定し(図-1)、さらに剪定箇所が目立たないように処理を行った(写真-1)。

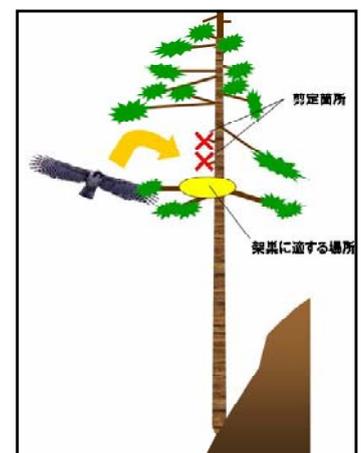


図-1 剪定イメージ

希少猛禽類

青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田57 TEL:0172-85-3005 FAX:0172-85-3008

3. 2. 半壊巢の補修

半壊巢の補修については、人工で補修した巢でのクマタカ繁殖例があることを考慮し、人工巢(誘導巢)設置の一環として行った。

①設置箇所の選定

半壊巢の補修箇所の選定条件については、3. 1. ①に示す営巢環境とほぼ同様の条件に加え、至近年に繁殖に成功した巢と目屋ダム常時満水位との標高差(70m)を確保出来る巢を補修することとした。

②半壊巢補修

巢材が崩落している自然巢について、近場から採取した巢材を積み上げることで半壊巢を補修した(写真-2)。



写真-1 剪定箇所の処理



写真-2 半壊巢の補修

4. 配慮方策の実施結果

4. 1. クマタカ人工巢(誘導巢)

クマタカ人工巢(誘導巢)については、繁殖は行われなかったものの、枝の組み直しや運び込みが認められたことから、造巢を試みた可能性がある。

4. 2. クマタカ補修巢

クマタカ補修巢については、平成20年3月末に静止画監視カメラによって抱卵が確認され、5月中旬にヒナの姿が確認された。

8月下旬に営巢林直下の崖地に留まる幼鳥が定点調査によって初認されており、巣立ち予定日通りであれば7月末にヒナが支障無く無事に巣立ったものと考えられる。(写真-3、写真-4)

補修巢でのクマタカ繁殖は東北で初めての成功となり、このことは地元紙でも大きく取り上げられた。



写真-3 補修巢内のヒナ(約65日齢)

5. まとめ

今回、クマタカ人工巢(誘導巢)における造巢の形跡、クマタカ補修巢における繁殖成功が確認された。

特に「クマタカの補修巢における繁殖成功」は全国でも例が少なく、東北では初、全国では2例目の事例となる。

人工巢(補修巢)で繁殖したクマタカの幼鳥が無事に成長すれば、津軽ダム周辺に生息する猛禽類の生息環境を保全でき、津軽ダム周辺の生態系の保全につながるものと思われる。

今回の成功事例の条件及び今後のモニタリング調査結果を整理することにより、同様の環境保全が必要な他事業の参考となれば幸いである。



写真-4 巣立ち後の幼鳥